

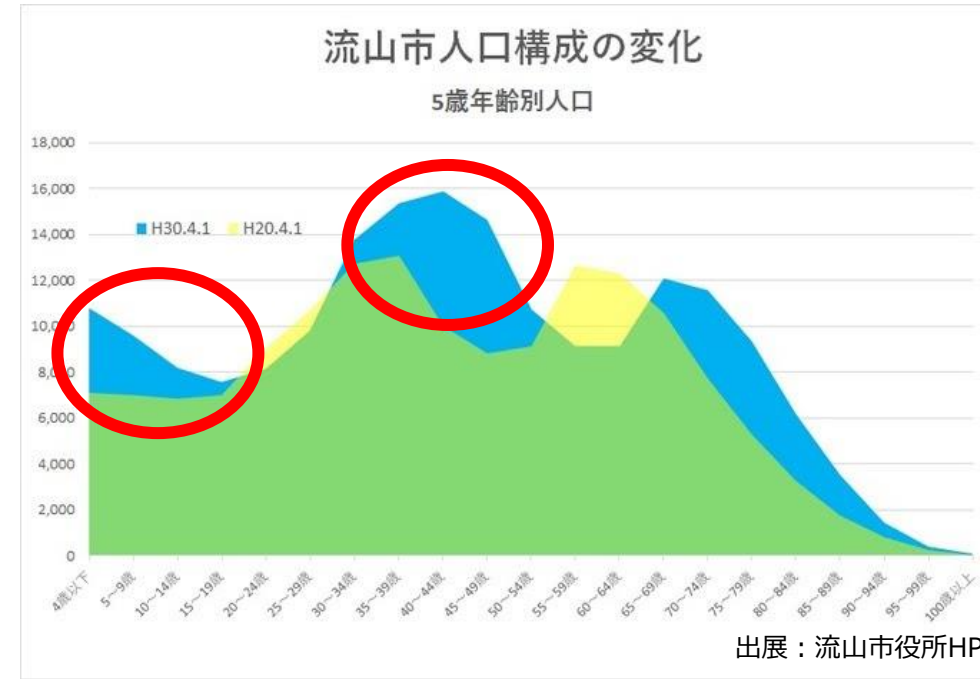
**もしわたしが「株式会社流山市」の人事部長だったら**

株式会社WaCreation / machimin-まちをみんなでつくる-

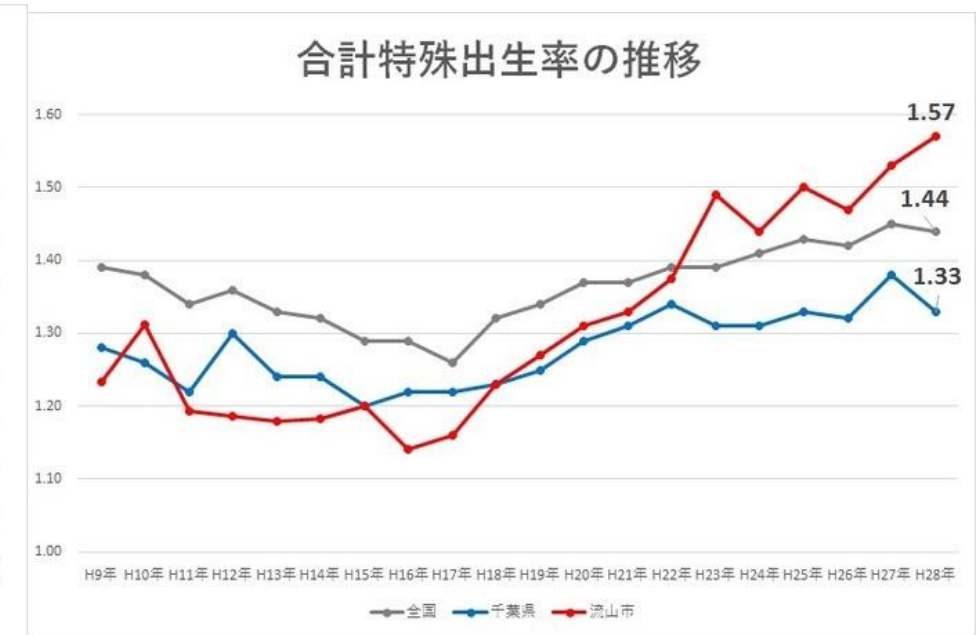
千葉県流山市



出展：流山市役所HP



出展：流山市役所HP



出展：流山市役所HP



出展：流山市役所HP



著書にて、現市長とまちを住民がつくることから  
はじまる都市計画への発展について対談が実現  
(市民で出版社勤務の方の企画により20年  
12月出版)

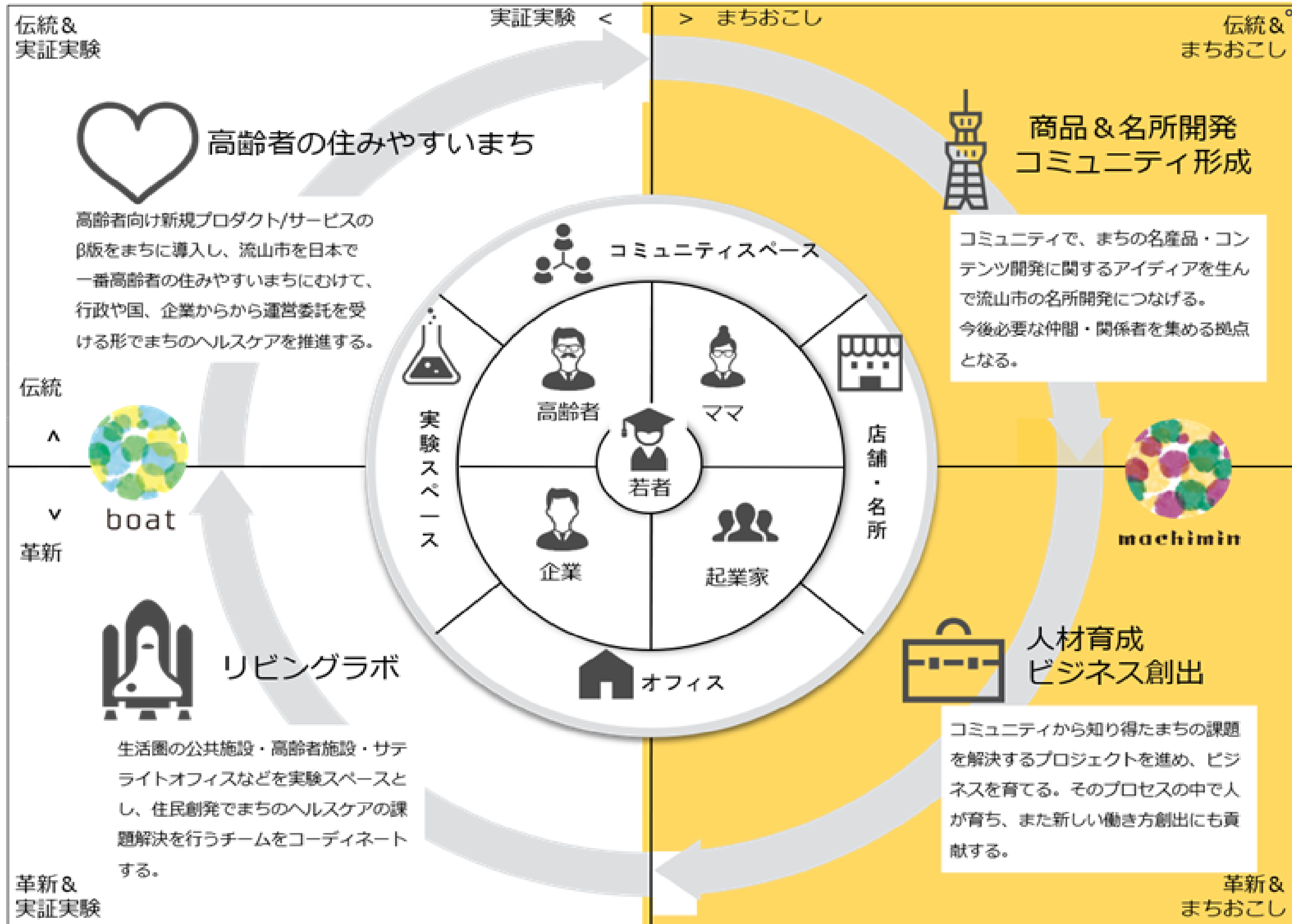
- 過去は千葉県の県庁所在地がある江戸川の水運で栄えたまち、歴史的なものが豊富にあり、物流の流れが水運から陸運に変わった際に、鉄道を引くのを拒否、衰退の一途をたどる
- 時が変わり、つくばエクスプレス線開通タイミングで行政がマーケティング課を設置、民間人を採用する「母になるなら、流山市。」というコピー、都内へ電車1本20分の利点で、都内勤務子育て世代誘致に成功
- 日経BPによる人口増減率ランキングは全市で5年連続1位、年少人口の人口増減率数は全国1位！
- しかし、ある一定のエリアに集中的に移住させたからこそその課題が多数発生

- 大阪出身、神戸大学経営学部人的資源管理専攻、07年新卒リクルート入社、人事・企画・企業向け経営コンサル営業
- 独身時代は東京都目黒区に住み、結婚のタイミングで自然あふれる子育てがしやすいまちを通勤圏内で探す
- 縁もゆかりもない土地で知り合いは0人。15年1月第一子育休の間に地域ボランティア活動へ参加
- 企業での経験がまちで活かすこと、行政との連携のしやすさ、を体感する。同時に各方面に知り合いができる
- 地元民と転入者の交流の少なさと見えない壁の存在、エリアによる状況差、そこからくるまちの大きな課題が散見され、ベンチャーが一気に新卒採用をした状態に似ていると気づく
- まちを「株式会社流山市」ととらえた際に、自分が人事部長と仮定すれば採用した人（住民）の育成・活用・配置転換・新規事業推進・制度設計・組織活性をどうすすめるか妄想する
- 17年3月第二子育休の間に市民団体を立ち上げボランティア活動開始、本気でやってみようと18年1月株式会社化
- 小学生の頃の「そんなはずはない、社会はこうあるべきと思う」という「仮説的理想状態」が本当に成立するか、どの課題がどの順番でどうやって解決していくのか、市民がまちをみんなで作れるのか、実験し始める



# 目標・コンセプト・事業内容・今後の展開

「したい気持ち」への壁を壊し、輪を創ることで壁をさらに壊す「チャレンジ都市」へ



右上から右下へ。全事業黒字化達成、左下に向かって進行中。

● **machimin1 コミュニティスペース 兼 観光案内所**  
旧市街地のローカル線終点駅のタクシー車庫を改装。菓子製造所も新設  
おばあちゃんの家で縁側でまちを知り好きになり、はじまる



● **machimin2 コミュニティスペース 兼 駆け込み寺**  
空き家でやる食材費ゼロのまかない食堂、運営費を稼ぐ遊びも  
子どもの居場所は子どもが『作る』、そしてみんなの居場所に



● **machimin3 コミュニティスペース 兼 田んぼ公園**  
開発地の流山おおたかの森エリア、南流山エリアから車で10分  
農作物を育て、食べたなら、空き農地になる田んぼで、心とからだを解放



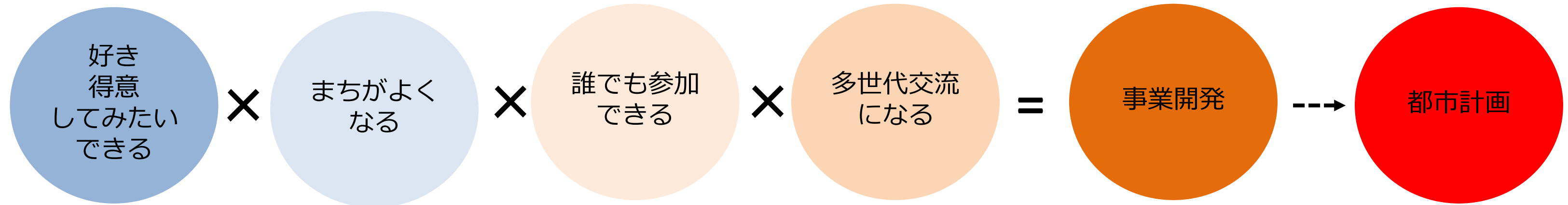
● **machimin4 コミュニティスペース 兼 移動図書館**  
場所も、建物も、スタッフでさえも所有しない。ただ椅子を置き公共を始める実験  
公園で図書館をしたら、公民館や博物館の機能も果たす学校ができるか？





人の好き・得意・したいから事業が生まれ、まちと成長。その利益でさらに次の誰かが課題解決

## プロジェクトをボランティアでスタート、自分開発は事業開発へ発展



### ● 具体事例 みりん51%商品開発プロジェクト（現本みりん研究所）

みりんの発祥のまちだからこそ、みりんを脇役から主役へ。和の煮物のイメージから、洋のスイーツに変身！

- ・面白いから・家でできるから・空き時間でできるから
- ・自由参加で名産品開発 = オープンイノベーション
- ・もっと知りたくって歴史や効能を調べまちを知れる
- ・与えられるのではなく生み出す経験をし、評価される
- ・商品開発を通じてつながりができたり、自身の変化・成長したり、自信がつく
- ・1人1作品を前提、名もない主婦からまちの歴史を刻む人へ
- ・**作品・商品・事業から利益が出たら利益按分（=machiminの運営費も稼ぐことにも繋がり、共に成長していく）**
- ・特別支援学校の授業運営を通年で行い、社会実習・就労経験にも進化
- ・不登校児がキッチンで商品を作るために来ると、小学校では出席扱いになった
- ・ママや子ども、シニアの創業支援として、また子ども食堂などの福祉活動の運営費稼ぎに市民団体などへ免許付きキッチンを解放
- ・企業からのODM依頼が絶えない状況に発展
- ・住民との共創モデルとして、みりんメーカーからプロモーション契約のご提案。食と関係ない業界のイメージ変革の依頼なども



左上からみりんのマシュマロ、みりんキャラメル  
左下からみりんクッキー、みりんビール  
全て砂糖不使用、みりん含有量51%以上